

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	11 03 08	中期総合計画主要施策番号	1-07,3-09,5-07,5-09	担当課	部・課	建設部 道路管理課
事業名	無電柱化推進事業(電線共同溝整備) (公共【道路管理】)			内線	3398	
				E-mail	michikanri@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	・安全で快適な通行空間の確保と都市景観の向上を図る。 ・安定したライフラインの確保と情報通信ネットワークの信頼性の向上を図る。				
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・歩道上に電柱があるため、歩行者の通行空間が狭まると共に、景観面においても非常に悪い。 ・災害時に電柱倒壊などによる二次災害の危険性あると共に、情報通信等の寸断のおそれがあり、信頼性が低い。 ・電柱や、電線が錯綜していることにより、災害時等の防災活動にも妨げとなる。				
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・これまで道路管理上の規制がないため、情報化社会の発展により特に需要の高い都市部において道路上に電柱、電線が増加してきている状況にある。				
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・電線共同溝の整備により、安全で快適な通行空間の確保と都市景観の向上を図ると共に、安定したライフラインの確保と情報通信ネットワークの信頼性の向上を図る。				
	事業内容	電線共同溝を敷設し、無電柱化を図る。 補助率:【国】1/2 【県】1/2				
実施期間	S61 ~	根拠法令等	電線共同溝の整備等に関する特別措置法 第5次無電柱化計画			
成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)		達成状況		評価
	電線共同溝を敷設することにより、安全で快適な通行空間の確保と都市景観の向上を図ると共に、安定したライフラインの確保と情報通信ネットワークの信頼性の向上を図る。 (無電柱化推進計画(H16~20) 7箇所、延長5.7km)	無電柱化推進計画に基づきH20はL=2.7kmまで整備を進める。		無電柱化を進め、整備延長は2.7kmとなったが、無電柱化推進計画の整備率は47%にとどまった。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下
事業コスト	区 分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要
	最終予算額 (A)	千円	145,000	210,000	180,000	国庫・県単 公共
	決 算 額 (B)	千円	132,427	197,629		実施方法 直接
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	4,212	28,390	23,000	歳出節別 H20予算現額(最終予算額+繰越額)
	概 算 人件費	従事する職員数 人	2.20	2.00	2.00	内訳等 260,782 千円
	概算事業費 (B(H21はA)+C)	千円	132,427	197,629	180,000	(単位: 千円) 1箇所当たり平均工事期間 5.0 年
事業実績	内 容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績
	電線共同溝整備済累計延長	km	2.1	2.7	3.1	
事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明				
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	・都市景観及び防災面の向上のため、市街地を中心として事業に対するニーズが高い。 ・道路法及び電線共同溝の整備等に関する特別措置法に基づき県が実施している。 ・第6期無電柱化推進計画(H21~)について関係機関との調整を進め、有効性を高める検討を行う。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	課題の総括	・コスト縮減を盛り込み事業進捗を図っているものの、地元から景観等の整備要望が加わり、多くの調整が必要となっており、早い段階から事業調整を進め、熟度を高める必要がある。 ・次期無電柱化推進計画は早期に関係機関との調整等を完了し、事業の有効性を高めるとともに重点的な整備を検討し検討する。				